

事業再評価シート

事業名	地域連携道路事業（補助事業）		
箇所名	都城志布志道路 一般県道飯野松山都城線 金御岳工区	市町村名	都城市

（上段()書きは当初計画）

実施方法	補助 交付金 県単			
事業期間	採択年度	再評価年度	完了予定年度	
	H25	H29	鹿児島県と協議中	
事業進捗	全体事業費 (百万円)	既投資額 (百万円)	進捗率(%)	
	(4,800) 7,800	2,720	事業費 34.9	用地 91.0
再評価の概要	対象選定理由		事業効果(B/C)	対応方針原案
	国の補助制度に関連し再評価が必要		(2.0) 1.6	継続

全体計画	<p>都城志布志道路は、九州縦貫自動車道宮崎線都城ICと九州唯一の国際バルク戦略港湾志布志港及び東九州自動車道とを連結し、都城市の地域資源を最大限に活用し、南九州における拠点性の向上を支える道路として、現在、国及び宮崎県、鹿児島県により整備が進められている延長約4.4kmの地域高規格道路であり、当工区はその一部を担っている。</p>
------	---

事業概要	<p>整備区間 金御岳IC～県境 全体延長 L = 2.9 km 道路幅員 W = 7.0 (12.0) m 主要構造物 橋 梁 N = 1 橋 ボックスガート N = 1 1 基</p>
------	---

事業目的	<p>対象事業の目的、必要性 ・九州縦貫自動車道宮崎線都城ICと志布志港及び東九州自動車道を結ぶ広域交通ネットワークの形成を図り、経済・防災・医療対策機能の強化を目的とし、南九州圏域の経済発展に寄与する。</p> <p>事業を継続する必要性 ・都城志布志道路は、本県及び国、鹿児島県が一体となって整備を進めており、整備効果を発現するためには当工区の完了が不可欠であることから、事業継続が必要である。</p>
------	---

事業の進捗状況

現在の進捗状況

- ・事業進捗率は平成28年度末現在で34.9%（事業費ベース）である。
- ・用地取得進捗率は平成29年9月末現在で91.0%（面積ベース）である。
- ・主要構造物としては、橋梁1橋が完成し、ボックスカルバート6基を整備中。

整備効果の発現状況

- ・これまでに行われてきた部分供用により、都城IC付近の企業立地数が増加。また、都城市郡医師会病院が都城IC付近に移転・開院している。
- ・都城市において、新たな工業団地整備に向け、作業が進められている。
- ・現道の大型車通過交通を排除することで、沿道周辺の振動、騒音の軽減、自転車・歩行者の安全確保が図られている。

今後の事業進捗の見込み

- ・用地取得を完了させ、残るボックスカルバート5基及び、盛土工、切土工、舗装工等を順次施工し、早期供用を目指す。

社会情勢等の変化

事業を取り巻く社会情勢等の変化

- ・平成26年4月に消費税が5%から8%に引き上げられた。
- ・平成27年4月に都城市郡医師会病院が都城IC付近に移転・開院。
- ・都城IC付近の工業団地には企業立地が増加。
- ・平成27年12月に都城市において、新たな工業団地整備に向けた基本計画策定のための調査費が予算化。
- ・平成29年度に宮崎県の梅北工区（L=2.5km）、鹿児島県の有明道路（L=4.3km）が供用予定

災害等の発生状況

- ・災害発生履歴なし。

環境保全に対する取り組み

- ・環境保全への取り組みとしては、建設発生土の有効活用や盛土法面の緑化を行うこととしている。

事業効果の分析

費用対効果

$$B / C = 1.6$$

事業を継続することの事業効果分析

- ・九州縦貫自動車道宮崎線都城ICと志布志港及び東九州自動車道を結ぶ広域交通ネットワークが形成され、経済・防災・医療対策機能の強化を図ることで、南九州圏域の経済発展に寄与する。
- ・現道の大型車通過交通を排除することで、梅北小学校へ通学する生徒の安全確保及び、沿道周辺の振動、騒音の軽減効果も期待される。

コスト縮減

コスト縮減の取り組み

- ・発生土の再利用において、他事業と連携を図りながら、コスト縮減に努めていく。

代替案の可能性

都城志布志道路は、本県及び国、鹿児島県が一体となって整備を行っており、全区間において事業着手し、既に供用を開始している区間もあることから、代替案の可能性はない。

対応方針

継 続（発生土砂運搬の縮減に努める）

位置図 (管内図)

